

令和 6 年度事業報告

令和 6 年度の財団の経営状況は、光熱費の増加や物価高、労務費の上昇に加え、施設の老朽化に伴う大規模修繕費の拡大、大型テナントの退去に伴う減収など、厳しいものとなった。

こうした中、財団の公益事業である「国際経済交流推進事業」については、県等との連携のもと、オンラインによる海外ビジネス活動への支援の実施や、貿易実務セミナーの開催、中国（山東省）販路開拓支援業務（下関市からの受託事業）を実施するなど、引き続き国際経済交流の推進に取り組んだ。

テナント賃貸事業では、安全・安心なビルの管理運営を確保しつつ、テナント誘致に繋がるよう貸会場を有する「海峡メッセ下関」の特徴を生かしたテナント限定の「貸会場使用助成金制度」を新設した。

また、指定管理事業は、施設稼働率・タワー入場者数とも昨年度を上回るなど、回復基調にあるが、築 28 年を超えた建物・設備の老朽化の影響は大きく、急増する修繕工事についても適切に対応した。

1 国際経済交流の推進

県、下関市、ジェトロ山口等の関係機関と連携し、中国を中心とした国際経済交流の推進に取り組むとともに、県内中小企業の海外進出や、海外でのビジネス活動をサポートした。

（１）貿易相談・海外ビジネス支援

ア 貿易相談等

輸出入についての市場調査や海外への販路開拓に関する相談に応じ、具体的に県内企業のビジネスを支援した。

<相談件数>

内 容	令和 6 年度	前年度
輸出に関する相談	4 1 件	4 5 件
輸入に関する相談	3 件	1 件
その他（企業紹介、各種調査通訳など）	3 件	1 4 件
合 計	4 7 件	6 0 件

イ 輸出入展示商談会開催の支援

山口県等で構成する「貿易商談会等実行委員会」に参画し、「山東省・山口県経済貿易オンライン商談会」の開催を支援した。

- ・開催日：令和6年11月6日（水）
- ・参加企業数：山口県9社／山東省24社　／　商談件数：29件

ウ 県内中小企業の海外ビジネス展開（中国）における支援

県内企業が中国市場に商品売り込む際に、ビジネスパートナーの紹介や個別相談等でアドバイスするなど、具体的な支援を行った。

特に7月には、下関市・青島市友好都市締結45周年記念式典に出席するため、下関市訪問団の一員として青島市を訪問し、青島国際ビール祭り会場に設置された下関市広報ブース（物産展）において、通訳や商品PRなどの支援を行った。

また、下関市から受託した「中国（山東省）販路開拓支援業務」では、市内企業と現地企業の商談会を実現するため、事前の市場調査から商談相手のマッチング、商談スケジュールの調整、商談時の通訳やアドバイス、帰国後のフォローアップまで総合的に支援を行うことで、市内企業2社がそれぞれ現地企業2社と今後も商談を継続する成果をあげた。

（2）貿易等に携わる人材の育成・確保支援

県内の貿易関係業務に従事する者を対象として、貿易に関する基礎的な知識の習得や貿易実務の能力向上を図るため、実務レベルに応じた「貿易実務セミナー」を開催した。

ア 貿易実務セミナーの開催

- ・基礎編（貿易実務の経験1年未満の者および未経験者）
日時：令和6年9月10日（金）　／　参加者：22名
 - ・実践編 輸出① 海外販路開拓（貿易実務の経験原則1年以上の者）
日時：令和6年10月8日（火）　／　参加者：12名
 - ・実践編 輸出② 輸出貿易実務（貿易実務の経験原則1年以上の者）
日時：令和6年11月12日（火）　／　参加者：15名
 - ・実践編 輸入（貿易実務の経験原則1年以上の者）
日時：令和6年12月10日（火）　／　参加者：12名
- ※ 昨年度までのカリキュラムにあった「貿易実務書類（英語）の解説」は、実践編輸出・輸入の中で適宜説明

イ 学生向けキャリアアップセミナーの開催

令和6年度は、新規事業として県内の学生向けにキャリアアップセミナーを開催し、地域における国際的人材の育成を支援した。

- ・学生向けキャリアアップセミナー
日時：令和6年12月4日（水）　／　参加者：15名

（３）貿易に関する情報収集・提供

県内企業等の貿易促進や海外取引機会の拡大を支援するため、情報の収集や提供に努めた。

ア 海外進出企業情報交換会の開催

県内企業等の貿易促進や海外取引機会の拡大を支援するため、関係情報の収集や提供に努めた。

イ 情報誌「メッセ海外通信」の発行及びＨＰを活用した情報提供

ジェトロ山口と共同で情報誌「メッセ海外通信」を年４回発行するとともに、財団ホームページに掲載し、ビジネスを中心とした海外情報の提供を行った。

２ 産業交流の推進

国際経済交流の拠点機能を高めるため、国際化の進展と地域産業の振興に取り組んだ。

（１）海外ネットワーク等を活用した協力・支援

ジェトロ山口と連携し、県内企業の貿易の振興を支援した。

（２）地域との連携

令和７年度以降の新たな取組みとして、県内の学生が将来的に地域の貿易関係企業に就職することを目標とした「企業マッチングイベント」の実施について、行政機関や大学等の関係機関と協議・調整を行った。

（３）貿易関係機関・団体との連携

貿易関係機関との連携を密にするため、国、県、市、商工会議所等が参加する「貿易関係機関団体情報交換会」を開催するなど地域の貿易振興に努めた。

３ 国際貿易ビルの管理運営

国際貿易ビルの国際経済交流の拠点施設としての機能充実を図るとともに、貿易振興事業に資するための財源の確保や経費節減を行うなど、国際貿易ビルの適切な管理運営に努めた。

また、新たに「貸会場の使用に係る助成金制度」を新設し、入居者へのサービス向上と効率的かつ安全・安心なビルの管理運営に努めるとともに、大規模改修として館内空調に係る「冷温水発生機改修工事」などを実施した。

なお、上記の施設修繕工事事務所としての短期入居が１件（１室）あったものの、２件（３室）の退去があり、テナント入居率は７５．７％となった。

＜国際貿易ビルの入居状況＞

（令和 7 年 3 月 3 1 日現在）

区分	貸室数 (財団所有部分)	入居室数	主 な テ ナ ン ト
5 階～7 階	3 3	2 4	ジェトロ山口、NHK、三井住友海上火災保険(株)、 (株)クマヒラ、下関市立大学 他
2 階～4 階	9	7	レストラン、シェアオフィス 他
その他	6	6	インフォメーションセンター
計	4 8	3 7	入居率 7 5. 7 % (面積比)
前 年 度	4 8	3 9	入居率 8 8. 9 % (面積比)

4 駐車場等の管理運営

国際貿易ビルの入居者用駐車場の適正な管理運営を行うとともに、「循環駆動装置部品取替工事」など、経年劣化のため計画的な大規模改修を実施した。

5 国際総合センターの管理運営（指定管理事業）

コンベンション施設の稼働率は、回復傾向にあるものの、コロナ禍を経てリピート利用が減少したこともあり、コロナ前の水準までは今一步の結果となった。一方でタワーは、団体旅行が順調に増加し、入場者数はコロナ前の水準の年間 7 万人を超えた。

※「令和 6 年度主要コンベンション開催実績一覧」は ページのとおり

（1）コンベンション

ア コンベンション誘致の推進

下関観光コンベンション協会と合同で、国内最大規模の商談イベント「国際 M I C E イベント I M E」に参加し、大型コンベンション誘致のため関係団体と商談を行うとともに、学会開催におけるキーパーソンを招致する「北九州 M I C E 倶楽部・下関観光コンベンション協会首都圏交流会」では、トップセールスも実施した。

また、コンベンション企画会社とアドバイザー契約により得たノウハウをもとに、これまでの医学部系コンベンションに加え、新たに工学部の学会を誘致した。

イ コロナ禍を機としたオンライン化への対応

ウェブ会議やハイブリット会議など催事の多様性に対応するために整備したインターネット回線等の貸出をすることで、リピーターの継続的な利用に繋げた。

（令和 6 年度利用実績：1 5 9 件）

＜令和6年度コンベンション施設の利用状況＞

(令和7年3月31日現在)

区 分	見本市会場	イベントホール	海峡ホール	国際会議場	会議室
利用件数	49件	21件	59件	63件	1,080件
利用延べ日数	100日	77日	102日	92日	1,266日
稼働率	27.9%	24.1%	28.5%	25.7%	58.9%
前年度	36.8%	19.5%	28.4%	24.8%	61.6%

(2) タワー

ア イベントの実施と広報活動

令和6年6月13日(木)にオープンから営業日数10,000日達成したことから下記のイベントを実施した。

＜第一弾＞・先着100名様に「タワーオリジナル手ぬぐい」をプレゼント

・タワースタッフの制服をリニューアル

＜第二弾＞・オーヴィジョン海峡ゆめタワー「天空の夏まつり」実施

・30階展望室にクレーンゲーム及びガチャガチャの設置

＜第三弾＞・「まいぜん祭り！in 全国タワーツアー」を実施（9/14-16）

あわせて、県の事業である「こどもや子育てにやさしい休み方改革」月間に伴い、令和6年11月は1ヵ月間、「こども連れ全員のタワー入場料無料」を実施し、期間中の入場者数は約12,000人であった。（無料分は別途県から補填）

また、コンベンション施設で開催される大規模学会に合わせてタワー29階に臨時カフェをオープンし、利用者の満足度向上に努めた。

イ 関係機関・団体等とのネットワーク強化

県や下関市はもとより「モアしものせき委員会」や「エキマチ下関推進協議会」等の各種関係団体と連携した取組を実施した。

特に、モアしものせき委員会にて製作したPR動画が「福岡広告協会賞」ほか2つの広告業界から表彰され、動画再生回数も41万回を超え、ゆめタワーを含む各施設のPRに繋がった。

また、地域連携事業の一環として、県や山口県花卉園芸農業協同組合と連携した県産花卉の展示や、啓発活動を行っている様々な団体からの要望に応えるタワーのカラーライトアップを実施した。

＜タワー カラーライトアップ＞

実 施 日	啓発活動	カラー
4/2	世界自閉症啓発デー	ブルー
5/6～8	世界赤十字運動月間	レッド
5/16	HAE DAY／遺伝性血管性浮腫啓発	パープル
6/20	世界難民の日	ブルー
8/1	水の日	ブルー

8/10	世界ハートの日	レッド
9/9	世界小児がん啓発キャンペーン月間	ゴールド／イエロー
9/21	世界アルツハイマーデー	オレンジ
9/30	「展望の日」 前日ライトアップ	レッド
10/1～7	やまぐちピンクリボン月間	ピンク
10/15～17	臓器移植普及推進月間	グリーン
10/29	世界脳卒中の日	ブルー
11/1・6・13・20・27	児童虐待防止推進月間	オレンジ
11/12	女性に対する暴力をなくす運動	パープル
11/14～16	世界糖尿病デーやまぐち	ブルー
3/8	国際女性の日	イエロー
3/9～11	世界緑内障週間	グリーン
3/13	世界腎臓病デー	グリーン
3/26	てんかん啓発	パープル

ウ 「ゆめたん」を活用したタワーPR

イベント等の開催に合わせて館内で来館者とふれあう機会を設けた。特に9月に実施した「まいぜん祭り！in 全国タワーツアー」での「まいぜんシスターズ」とのコラボや、2月実施の「やまぐちオリジナルユリ振興協議会」や「JA山口」との連携イベントである「天空のフラワーバレンタイン」では、「やまぐちオリジナルユリ振興大使」であるタレントの岡澤アキラ氏を招待し、多くのファンと交流した。

また、新たなオリジナル・グッズとして「ゆめたん手ぬぐい」の商品化及び「缶バッジ」のデザインを増やし、販売することでタワーのPRに努めた。

＜タワーの利用状況＞

(令和7年3月31日現在)

区分	入場者数	(内、共通チケットの入場者数)		
		海響館	門司ロター	観覧車
平成30年度	79,137人	1,797人	208人	464人
令和元年度	71,802人	1,571人	240人	492人
令和2年度	32,538人	667人	80人	207人
令和3年度	38,687人	1,114人	202人	380人
令和4年度	68,279人	1,582人	285人	630人
令和5年度	69,356人	1,713人	316人	515人
令和6年度	76,440人	1,205人	192人	355人
前年度比	110.2%	70.3%	60.8%	68.9%

※ 11月「こどもや子育てにやさしい休み方改革」の期間中、こども連れタワー入場料
全員無料に伴い、1ヵ月間3種の共通チケットの販売中止

※ 12月1日～海響館のリニューアル休館に伴い、共通チケット販売中止

(3) 安心・安全な施設環境に留意した運営

ア 防災関係

万全な危機管理体制を構築し、入居テナントを含めた参加型の消防訓練を実施するとともに、プロパー職員を中心に「自衛消防業務講習」を受講させることで、防災意識の定着と公の施設として安全・安心な施設運営に努めた。

イ 施設の維持管理・運営

効率的かつ適切な維持管理を実施するとともに、県と協議して、「6号エレベーター改修工事」や「イベントホールLED照明更新工事」などの大規模修繕を実施した。

また、利用者サービスの向上などを目的に、第1（屋内）駐車場の24時間化を4月より試行的に実施しているが、特に学会関係者など、連続して施設を利用する方を中心に好評を得ている。

ウ 職員の資質向上

事務処理の効率化と職員の社会的知識を深めることを目的に、オンラインを含めた専門的な社外セミナーに参加させた。

- ・インバウンドOTAセミナー / イベント安全対策シンポジウム
- ・公益公人会計セミナー（入門編・基礎編・実務編・決算編）
- ・電気主任技術者研修会 / WEB版脱炭素セミナー ほか

令和6年度 主要コンベンション開催実績一覧

開催日	催 事 名 称	規 模
5/16～18	第65回日本神経病理学会総会学術研究会	全 国
5/25～26	第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会	全 国
6/1～2	ライオンズクラブ国際協会336複合地区 第70回年次大会	中四国
7/17～19	第79回日本消化器外科学会総会	全 国
10/26～27	第31回日本精神科看護専門学術集会 in 山口	全 国
1/29～30	電子情報通信学会RCS研究会・SIP研究会・IT研究会	全 国
2/20～22	第55回日本心臓血管外科学会学術総会	全 国

